

第3回 Kawa-Bay 未来投資会議 議事録要旨

| | | | |
|--|-------------------------|----|-------------|
| 日 時 | 平成29年12月3日（日） | 時間 | 10:00～12:00 |
| 場 所 | 岐阜県川辺漕艇場 新艇庫2階会議室 | | |
| 内 容 | 比久見地区工場跡地の活用策（案）に係る意見交換 | | |
| 出席者 | 別紙名簿のとおり | | |
| <p>▼議事</p> <p>(1) 座長あいさつ</p> <p>(2) 町長あいさつ</p> <p>(3) 活用策（案）についてプレゼンテーション</p> <p>(4) 意見交換</p> <p>(5) 座長あいさつ</p> <p>(6) 町長あいさつ</p> <p>(7) 今後のスケジュールについて</p> <p>▼議事概要</p> <p>(1) 座長あいさつ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会議を重ねていく中で、理想を述べているのと現実のギャップを感じつつあるような時期になってきた。今後、政治的、資金的、地権者との交渉などいろいろな問題に直面することになるが、何か一步を踏み出したい。 ・最終的に理想的なところまでいくのには時間がかかるが、町長発案のこの会議こそが、大きく踏み出していける唯一の場だと思うので、忌憚の無いご意見やご提案を出していただきたい。 <p>(2) 町長あいさつ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・委員に対して今日の会議への参加のお礼。 ・今回の会議の会場である岐阜県川辺漕艇場新艇庫は2012年の国体開催に合わせて県に整備していただいたこと、またこの環境を生かして、町内小学校の5年生6年生は毎年授業の中でカヌー体験を、さらに中学校1年生はボート体験をさせていることなど紹介。 ・今回の会議では活用策の素案（たたき台）を事務局側で作成したので、これについて活発な意見交換をしたい。ボートだけでなく、サップ、カヌー（カヤック）、トレッキング、それからゴルフ場というような宝物が川辺町にはあるのではないかとということで、それを案に取り入れている。さらには一周3.5kmの湖岸遊歩道も活用したい。素案作成に当たっては、前島委員に多大なご協力をいただいた。 ・この会議のメンバーである市岡委員から10月の終わりに100万円の寄附をいただいた。特にKawa-Bay未来投資会議に使ってもらいたいというご希望なので、来年度の予算でそのことを加味しながらありがたく使わせていただきたい。 ・次回の会議は2月11日の日曜日、午前10時からを予定しているが、次回はオープンにして大勢の町民の皆さんに傍聴に来ていただきたいと思っている。そしてこの会議の内容やメンバーの皆さんの人柄であるとか話しぶりを町民の皆さんに聞いてもらいたい。合わせて町議会議員の先生方あるいは、県議員、国会議員の先生の | | | |

皆さんもお招きして、まちづくりで苦心している現状を見ていただきたいと考えているので、この点について委員の皆さんにお諮りしたい。

- ・第1回の会議では今年度までに2~3案に絞り込みたいと申し入れていたが、今はまだまとまるような状況ではないので、来年度もこの会議を継続していきたい。ついては是非とも皆さんにご賛同をいただきたい。

(3) - 1 活用策(案)についてプレゼンテーション

資料「比久見の工場跡地の再開発による川辺町の活性化策～(たたき台)」に基づいて、会議ファシリテーターの藤田和廣氏が提案説明。

次いで、実際にこのダム湖でのサップ体験、ツアーの風景をまとめた動画を視聴していただく。企画まちづくり課長から補足説明。

(3) - 2 前島委員からの補足説明

- ・町事務局からの依頼で今回のイメージ図を作成した。動画を撮影した「BC Caravan」とは以前からの知り合いで、彼らがこのダム湖を利用してサップを楽しんでいることから紹介させていただいた。サップの環境としては川の上流の方が魅力的だということで、北に向かってどんどん進んでいくツアーを実施している。集客について資料を提出してもらったところ、今年はツアーに103人の方が来られて、ほとんどが県外からであった。関心のある方であれば遠方からも来てもらえる。特に川辺町がサップで売り出しているわけではないが、「BC Caravan」曰く、風も吹かないし、水量が安定しているというところがここの長所で、子どもから年配の方まで、安全に楽しめるベストな環境らしい。さらに商売としても十分成り立つと聞いた。これからも利用が増える見込みなので、今後はモラルハザードに対するガイドラインをしっかりと作成して利用してもらわなければいけない。またハード面では途中の休憩所となる栈橋やトイレの整備も必要になってくる。今まで全然注目されていなかった上流は、競技用ボートの部分と重ならないのでエリアを区切って活用できるのではないかと。
- ・(工場跡地の)土地に関しての資料は、町の意見と私の案を想像しながら作らせていただいた。人が循環するシステムを造りたい、この土地で安価でスタートすることができないか。北の方のサップエリアに向けてここに集まっただきながら、ショップを見ていただくような場所にしたい。町ぐるみで地元野菜の直売やチャレンジショップを集めて魅力的なエリアとして位置づけしながら描いてみた。またイベントも企画できるようなスペースも設けた。7,000坪といっても、進入路だとか150台の駐車スペースも確保しているの、実際はそれほど広く使えずどうしても手狭に感じる。隣接する湖岸遊歩道に人の循環を持っていく狙いもあって円形を主体にした絵に落とし込んだ。
- ・これはあくまでもたたき台なので、ここから更に何か欲しいだとかいう議論になってくると思うが、まずは可視化されていくことで、これが良いのか悪いのかということも詰めていくことができ、会議の内容もどんどん進んでいくのではないかと思、絵を描くことを受けさせていただいた。

(4) 意見交換

- ・ファシリテーターの藤田さんが進行。
- ・論点の整理。配付資料にあるイラストを参考に比久見の工場跡地をどのように利用していくか。水辺のスポーツ、遊び、トレッキング、ゴルフ、こういったスポーツを切り口にした観光産業について。もう一つは、それを実際に誰が動かしていくのか、民間事業者を誘致するのか、町民らによる住民自営組織みたいなものと考えていくのか、ご意見をいただきたい。
- ・何かを満たさないといけないと思う。川辺には食べる場所やショッピングモールが無い。結局町内で調達できないものがあるから、町民が外に行く。(イラストに

ある)この瓢箪形の点々の所に、例えば小さい洋服屋さんなどを置いてショッピングモールみたいなものがあったら面白い。(神農委員)

- ・スポーツを軸にして産業を考えていくというのは面白いと思う。その際サップも含めた水辺のスポーツが他の地域にはないものとして強みとなる。その運営をしていく組織が住民自治組織であることに非常に賛成する。最初から行政ばかりだと長く続かない。上手く続けていくためには拠点整備を含めて税金の投入をできるだけ少なくして、知恵を出し合って本気で考えることで、できるだけ失敗が少ないやり方という流れになっていくのではないかと。(廣瀬委員)

- ・サップだけで占有できないのではないかと。川の利用を制限できないから、環境の良さを知った若者が自由に水上バイクなど乗り入れて来る可能性が高い。また民間会社でやると特定の者に利益を与えることになり、独占権の問題が出てくる。もう一つは漁協組合との調整が難しいのではないかと。企業が独占すると非常に相手は良いのだけれども、漁業への影響を心配する漁協などと調整がうまくいかず水上バイクなどはみんな失敗している。その辺りを整理しなければいけない。

(市岡委員)

- ・そのためにも住民自治組織を立ち上げて、住民自治経営組織でやるのでは。

(廣瀬委員)

- ・そこには行政が間に入ることできちっと調整をしないと、おそらく民間だけではできない。(現在の)ボートを始めたときにも漁協組合からはかなり抵抗があったのだろうと思う。それでもなんとか現在に至っている。(佐伯委員)

- ・サップはやったことがないので興味をそそられた。あまり知られていないもので注目を集めるというのも一つの手法だと思う。もう一つ気になっているのが、中学校にボート部があって、そのすぐ横が練習場というのはあまりないと思うので、この環境をもっと生かして中学生に力を入れて、全国で一位二位を争うようなところまでいけば注目されてくると思う。大阪の堺市ではガス会社跡地にサッカー場を作って、しかもなでしこジャパンが活躍し始めたときに、中学生の合宿をしながら訓練・練習できる施設を作っている。そういう風に注目を集めながら、楽しいこともやりながらこの川辺湖をもっとPRしていくという方法があるのではないかと。もう一つ愛知県東郷町は今人口が4万人ぐらいだが、中心市街地が空いているため、今ここを開発して大きなショッピングモールを誘致するという計画があって、その周りにはエコタウンを整備するという町長さんの構想がある。しかもここに町100%出資の株式会社が運営するスポーツ施設を持って来るなど、いろんな発展的なことをやられていて、順天堂大学とも連携をして子どもたちの体力向上について取り組んでいる。(伊藤委員)

- ・商工会から提案したものがやっとな役場の方からこうしたいという思いが出て、非常に嬉しく思う。商工会の立場からすると、どんどん人口が減っているため川辺町内だけのお客さんではすでに商売が成り立たない。要するに外から川辺に来てもらわないと商売が成り立たない。それと川辺中学校ボート部の話があったが男女がダブルスカルで全国3位になった。そこで活躍している子どもたちをもっと出してあげると他の人の励みにもなるのではないかと。また、香港のボート競技のナショナルチームの監督がここを気に入って毎年合宿に来たいと聞いた。川辺町に香港のナショナルチームが来れば、町民との交流の場も世界に広がっていくという可能性がある。さらにこれらを上手く利用すればSNSを活用して世界に発信できるので、ぜひ誘致を進めてみてはどうか。(佐伯委員)

- ・香港のチームの人たちが来てもおもてなしをする場所がないからそういうところを作らないといけない。今泊まれるのはかつや旅館さんぐらいしかない。

(神農委員)

- ・空き家を活用できないかと。(伊藤委員)

- ・香港チームから「ここで毎年世界選手権の前にキャンプをやりたい、それと東京オ

リンピックに向けた事前キャンプをやりたいので、こちらで艇を用意してくれないか。」という要望がある。艇の購入には1,000万円ほど要する。チームはスタッフ含めて20名ぐらいになるが、宿泊はかつや旅館さんでOKだとも聞いている。事前キャンプをすると県の補助金については1/2がいただけることになっている。

(馬場企画まちづくり課長)

- ・長良川に「うかいミュージアム」という鵜飼の展示施設を作ったが、お客さんが来ていない。そこで賑わいを作ろうと「マルシェ」を開催して集客を図った。川辺でも一日か二日あの場所をお借りして、実験でやってみてはどうか。町民のみなさんにそういうイベントに来てもらって、白川や美濃加茂など周辺市町とも一緒に取り組んでみる。それで集客力や売上げや効果の形を見ながら、具体的にいけるのかということでプログラムを組んでいけば、あまり手間がかからない。最初は実行委員会みたいなものでよいから、いろいろなネットワークも活用して、何回か集まってワークショップを重ねながら進めていく。そういうまちづくりの中で交流も生まれてくると思う。(富樫委員)
- ・前回の会議の後に言っていたが、グルメフェアやグルメマルシェというのをやってみてはどうか。小回りのきくお店が結構あるので、情報を集めて試験的に一回やってみてはどうか。実現可能であればモンゴルの移動式住居「ゲル」を借りて、ワークショップをしたり、ご飯を食べたりできればよいのかなと思う。そこに特産品があったり、美味しい物やお酒があれば、町外からも人は来てもらえるはず。川辺で作った野菜を使った地産地消のレストランができればそれが流通になり、点と点が線になっていくのかなと思う。(神農委員)
- ・私もジャムを作りながら名古屋でマルシェを月に何回も行っている。先日の白扇酒造さんのイベントにも出させていただいて、多くの人に来てもらえることを実感できたので、そこに周りの自然を取り入れながら体験してもらい、さらに美味しい物を食べてもらって一日楽しめるイベントができればよいと思った。あとは、スポーツ・観光をもっと出すのであれば、住民の協力に加えてプロの方がいることで、他では体験できない一流のプロからのスポーツの指導を受けたりできれば名古屋の方からも来るのではないかなと思う。マルシェには、住民の方にぜひ参加してもらって、愛菜の会の方や、野菜を作ってみえる方、郷土料理を作っているお母様方の団体もあるので、そういう方たちの協力を得て川辺の大事なところは発信し、多くの皆さんが関わって参加できるようなイベントを考えていけるとよい。(平岩委員)
- ・プランとしては最高かと思うが、小学校中学校ともに川辺で育っているので「ボート王国」と言われることに関しても、あまり興味がなかった。ただ、今日これだけ説明されて皆さんの反応を見ると、マリンスポーツができる環境は貴重だと少し実感した。スポーツに取り組むのも大切だと思うが、それよりもどちらかというと健康の方を前に出した方がよいかなと思う。健康のためにマリンスポーツをするという流れに持っていけないか。最近若者と一緒にゴルフなどスポーツをやることが多いのだが、筋力の低下を感じる。例えば「健康のまち川辺」と謳って町民が健康になることが一番よいのかなと思う。健康に関したことは、全て川辺に来ればできますよとPRするのもよい。(山田委員)
- ・(湖岸遊歩道やトレッキングコースという)ルートがあるから、高齢の方を対象に健康目的のお散歩する会を開催して、新聞などに載せてもらってPRしてみても。(神農委員)
- ・中学校の時にボート部に所属していて、実は私も全国2位になった。当時水上で練習をしていて、あんまり上流に行くなと言われていたが、辛い練習を避けるために暑い夏場川沿いの木陰に行くと、水の流れやマイナスイオンを本当に実感できて、今振り返ると確かに財産なのかなと思った。それはサップだけではなく、カヌーなどでも十分体験できると思う。消防団の仲間同士で一度無くなったゴルフ

の会を再び作ってゴルフを楽しんでいるので、ゴルフでどのようにまちづくりができるのか、どういうアイデアがあるのかぜひ教えていただきたいと感じた。

(日下部委員)

- ・図面でもわかるように、せっかく川の近くにあるのに水に触れられず、水遊びができない。以前花火大会の時に県の方がみえたので、この川の水を汲み上げて元に戻したら許可が出るかと聞いたら、だめだと言われた。自分の土地があるのに水を使えないのが現状。この水を使いたい時に汲み上げて滝のように流せば一体感が出てよいと思うが、水を使う権利の無いことがネックになる。(市岡委員)
- ・先週上之保のゆず祭りに行ってきたが、どこからこんなに人が来るのだろうかという感じのすごい人出で、他県からも毎年多くの人が来ているようだった。川辺のふれ愛まつりと何が違うのか考えてみたところ、坂祝町や富加町と同じ日に開催していた。先ほどのサップの映像を見て、川辺にはすごく良い場所があるのだと思った。しいたけ狩りに都会から来たお客さんも空気を深呼吸して、ここで何時間も滞在されることから、田舎に癒しを求めに来ていると思うので、自然環境を売りにしていくとよいのではないのかなと思った。(大脇委員)
- ・町長の考え方を含めて、しっかりとした議論ができていないのではないかと感じている。町民は今、7,000坪の(工場跡地の)土地利用と、学校統合という問題に注目し、期待をしている。合わせると十何億というお金が必要になるが、議会は行政と両輪でしっかりと議論し、運営していかなければならないと考えている。かつて若い頃にこの川で水上スキーなどをして親しんだ記憶がある。上流の岸边にはトイレや休憩所がない、また道路の方からすぐに入っていけるような場所も必要になるのではないかと。学校統合のためには3,000坪の敷地は必要かと思うが、あの7,000坪の土地に子どもの声があるというのが私の理想の姿だ。この議論を町議会にはしっかりと説明していくので、更に興味深いご意見をいただけるとありがたいと思う。(平岡委員)

(5) 座長あいさつ

- ・非常に前進した感じがする。これを現実の方に進めていけるように、これからも皆さんの貴重なご意見をいただき、川辺のために何とか前進させていきたい。よろしくをお願いします。

(6) 町長あいさつ

- ・今日いただいたご意見は本当に参考になるものばかりだったと思う。またこちらでしっかりとまとめて、委員の皆さんにフィードバックしたい。ありがとうございました。

(7) 今後のスケジュールについて

- ・馬場企画まちづくり課長から会議のお礼と次回会議スケジュールの説明。
- ・次回は来年2月11日(日)で町民参加型の会議にしたい。

▼まとめ

- ◇前回会議での意見を受けて、町(事務局)から議論のたたき台となる活用案を提示し、それについて参加の委員全員から多くの意見をいただきながら会議を進めた。イメージ図や動画なども織り交ぜて、できるだけ可視化した資料を準備した。
- ◇この案を実現していくためには、今後町民を巻き込んだ住民経営組織が必要になる。
- ◇子どもへの投資を明確にすることが大事だ。
- ◇過大な投資をする前に、まずは工場跡地をあのままの状態でマルシェのようなイ

ベントを数回開催して社会実験をしてみてはどうか。

◇次回は、このテーマに興味のある町民の方にも自由に参加していただく会議にしたい。更にプランを練り込んでいくために、町民の方からいろいろなご意見がいただける貴重な機会にしたい。

▼その他

◇次回第4回の会議は、平成30年2月11日（日）午前10時から「川辺町中央公民館」で開催。